

第 18 回全国高等学校情報教育研究会全国大会（千葉大会）大会参加報告

愛媛県立東温高等学校 古田 賢司

1 大会主題 教科「情報」の現在と未来 ～情報技術の革新と情報教育～

2 会場 千葉工業大学（津田沼キャンパス）

3 日程

(1) 8月8日（金）1日目

12:30～ 開会行事

13:00～ 基調講演

14:20～ 分科会

15:50～ ポスターセッション

(2) 8月9日（土）2日目

9:30～ 分科会

13:30～ ポスターセッション

14:45～ 講演

4 基調講演

「生成 AI 時代の情報教育」

東京大学名誉教授 坂村 健 氏

5 分科会

(1) 分科会 A

セッション 1	T 高校における共通テスト情報 I 対応戦略「生徒アンケートから見える課題と可能性」 東大寺学園中学校・高等学校 吉田 拓也
セッション 2	情報 I の年間指導計画からみる特徴や工夫、課題の事例紹介 埼玉県高等学校情報教育研究会 泉田 駿
セッション 3	データサイエンスプレゼンテーションの授業実践 愛知県立高蔵寺高校学校 田中 健
セッション 4	高等学校「情報 I」における生徒が生成 AI の役割を自ら切り替えて問題解決に取り組む授業の実践 大成高等学校 萩原 浩平
セッション 5	生徒が主体的に学習に取り組む情報 I における実践 東京都立三鷹中等教育学校 能城 茂雄
セッション 6	情報 I 4 回転授業モデル 千葉県立船橋啓明高等学校 谷川 佳隆
セッション 7	この素晴らしい情報 I に情報法を！ 中央大学杉並高等学校 生田 研一郎

セッション 8	ワクワク情報Ⅰ：総ざらい実習指導実践と生徒成果物事例 東京都立松が谷高等学校 布村 覚
セッション 9	「データの活用」問題解決学習の実践と課題 東京都立国立高等学校 小原 格

(2) 分科会 B

セッション 1	「情報デザイン」授業実践報告のテキストマイニングによる分析 Part2 帝京大学ラーニングテクノロジー開発室 天野 由貴
セッション 2	情報デザインの単元を全て主体的学習にしてみた 西宮市立西宮東高等学校 真田 和樹
セッション 3	自己有用感を熟成する情報デザインの指導方法の模索 横浜市立戸塚高等学校定時制 杉山 大海
セッション 4	情報Ⅱを想定した階層型クラスタリングの授業実践 追手門学院大学 岸本 有生 四天王寺大学 本多 佑希 大阪電気通信大学 兼宗進
セッション 5	教科情報での学びを探究で応用させるには 京都産業大学附属中学校・高等学校 森本 岳
セッション 6	ソフトウェアテストを意識したプログラミング教育 千葉県立沼南高等学校 沼崎 拓也
セッション 7	理系全員必修に向けた情報Ⅱの授業計画と外部連携 雲雀丘学園中学校・高等学校 林 宏樹 電気通信大学 渡辺 博芳
セッション 8	生徒が主体となって進める情報Ⅱの授業実践報告 東京都立立川高等学校 阿部 百合
セッション 9	10 年目(相当)の「情報Ⅱ」実践——普通科高校における年間授業モデル 日出学園中学校・高等学校 武善 紀之

(3) 分科会 C

セッション 1	プログラミング学習の多様化を目指すための小型カー開発 秋田県立秋田北鷹高等学校 川村 幸生
セッション 2	生成 AI によるプログラミング支援システムの開発とマイコンボードへの活用 元東京都立日比谷高等学校・元東京学芸大学 天良 和男

セッション 3	「和歌を情報学的な視点で見よう」教科書横断的な学習の実践報告 千葉県立柏の葉高等学校 浅見 智峰
セッション 4	生徒の体験と物語創作を通したメディアリテラシー教育 愛知県立緑丘高等学校 橋本 正隆
セッション 5	学校設定科目「情報学基礎」における生成 AI に関するリテラシーを涵養する授業実践 京都市教育委員会 中村 央志
セッション 6	プロンプトリテラシーの向上を目指した授業と評価 お茶の水女子大学附属高等学校 山上 通恵
セッション 7	コンピュータの起源を通してコンピュータの仕組みを学ぶ授業実践 神奈川総合産業高等学校 大石 智広
セッション 8	情報科の「中核的な概念」を段階的に学ぶ教材の開発 ノートルダム清心女子大学 大西 洋
セッション 9	高等教育につなぐ情報教育の実践 麗澤中学校・高等学校 野口 紘司

(4) 分科会 D

セッション 1	プログラミングの授業 段階を踏んでやってみた アサンプション国際高等学校 岡本 弘之
セッション 2	情報 I のプログラミング教育に生成 AI を利用することの是非 愛知県立旭丘高等学校 井手 広康
セッション 3	探究的にプログラミングを学ぶ情報 I 授業 岡山理科大学 高橋 信幸 京都府立乙訓高等学校 河端 梓
セッション 4	不登校経験や外国にルーツを持つ生徒に対応した情報科授業の実践 東京都立一橋高等学校 喜多 智美
セッション 5	挑戦と成長を促す「全範囲自由進度学習」の実践報告 東京都立小岩高等学校 椋本 哲也
セッション 6	DX ハイスクールにおけるウェアラブル端末を活用したデータサイエンス実習 福岡県立糸島高等学校 長江 一範
セッション 7	論理回路の設計を体験できるブラウザ学習教材の開発と実践 名古屋市立緑高等学校 小林 裕司
セッション 8	ネットワーク基礎理解を目的としたピクトコルシミュレータによる指導実践 樟蔭中学校・高等学校 川浪 隆之・高田 真理

セッション 9	プログラミング指導方法の分類と生徒の手が止まったときの教材改善 佼成学園中学校高等学校 岡野 英樹
---------	--

6 講演

「情報科の授業実践へ期待すること」

須藤 祥代 氏

国立教育政策研究所教育課程調査官・文部科学省教科調査官

(併) 文部科学省初等中等教育局

修学支援・教材課/教育課程課情報教育振興室教科調査官

(併) 文部科学省初等中等教育局

参事官(高等学校担当)付産業教育振興室教科調査官

7 概要

初日の基調講演では、生成AIの歴史や変遷から始まり、AIの技術進化に関する話をしていただいた。人とAIの違いは「欲求」を持つかどうかであり、AIは問題を解くことに特化しているが「問題を作る」力は人間の方が得手であり、「イノベーション」はAIにできない。なおかつ、適切に使わないとAIもきちんと問題を解くことができず、使い手には「AIの上司としての力」が求められるということであった。そのため今後は、例えばプログラミング教育についてはコードを書く「コーディングスキル」というよりも何を作るかを考える「問題設定力」が大切であり、そのためにより一層の広い教養が大切になってくるというお話しであった。生成系AIの技術進化は止まらず、今後も様々な業界で必要となってくるツールである。情報科教員として、生徒にはAIを活用し、AIと共創する意識を大切にさせ、そのために必要な創造力、国語力、論理的思考力、そして根幹となる教養的な部分を指導していかなければならないと感じた。

分科会では、各セッションで3つの分科会から一つ選んで発表会に参加した。今年度も昨年に引き続き「生成AI」や「プログラミング」等に関する発表への参加者が多く、特に生成AIをどのように、普段の授業や生徒の学習活動の中で活用するかという観点からの内容が目立った。そして論理回路を理解するための自作ホームページの紹介や各校で実施された探究的活動における生徒の成果物紹介など、授業者として非常に刺激を受ける発表も多かった。また「教科横断型の授業」や「地元企業や大学等との連携」など、他教科や多職種との連携をされている発表もあり、気付きも多く大変参考となった。

二日目の講演では、新しい時代に必要な力とは何か、文科省のめざす「主体的・対話的で深い学び」がどういったものであるかを確認するところから始まり、情報科に目指してもらいたい教育がどういったものであるかをお話しいただいた。また講演の途中で参加者同士が意見交換を行うワークショップも実施され、質の高い探究的学びの実現と情報活用能力の抜本的向上に向けて、大切なことはどんなものかを考える貴重な時間となった。